

施策推進の方向性について

I 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

推進施策	推進の方向性 〔「継続」「拡充」「新規」の判別は、平成21年度(2009年度)と平成22年度(2010年度)以降との比較による。〕	備考 〔 : 部会での意見 : スポーツに関する意識調査結果 : 広島市の現状分析結果 〕
1 健康づくり、体力づくりに向けたスポーツ活動の振興		
40代からの健康づくりや高齢者の健康づくりのための事業の実施	<p>拡充: シニア健康ウォーキングなど地域スポーツ振興担当コーディネーターと各種機関・団体との連携による健康づくり事業に加え、メタボリックシンドローム対策支援事業など40代からの健康づくりに関する啓発とその実践を促すための事業等を実施する。</p>	<p>運動・スポーツをしている市民の4割が実施理由に「健康・体力づくり」を挙げている。</p> <p>市民が運動・スポーツに関して求める情報として最も多いものは、「体力・健康づくりの方法」である。</p> <p>1年間によくやった運動・スポーツやこれからやってみたい運動・スポーツとも、ウォーキングが最も多くなっている。</p> <p>障害者や高齢者に適したレクリエーションスポーツの研究・体験会を実施する。</p>
健康づくり・体力づくりに関するスポーツセンターの相談機能の強化	<p>拡充: 各区の保健センター等の保健医療関係機関・団体と連携し、健康づくり・体力づくりに関する相談機能を強化する。</p>	<p>市民の運動・スポーツ施設に対する期待や希望で最も多いものは、「健康・体力相談体制の整備」である。</p> <p>健康・体力づくりなどに関し、気軽に相談でき、専門的なアドバイスが受けられるような指導・相談体制を望む声が多い。</p> <p>超高齢社会の進展など社会環境の変化により、市民の健康に対する意識はますます高まると考えられる。</p>
2 地域における子どものスポーツ活動の振興		
地域スポーツ振興担当コーディネーターによる子ども会や児童館の事業への支援	<p>継続: 子どもまつり等のイベントで実施する体力測定など団体や施設が地域の子どもの対象に実施する事業に対し、地域スポーツ振興担当コーディネーターによる支援を行う。</p>	<p>子どもの体力の向上方策として、子どもが地域で積極的に運動・スポーツに親しむことができる環境づくりに取り組む必要がある。</p>
広島市小学生体育連盟の活動への支援	<p>拡充: 広島市小学生体育連盟が実施するスポーツ教室等に加え、地域における子どものスポーツ活動を充実させるために指導者の確保や活動場面の工夫など広島市小学生体育連盟の活動への支援を検討する。</p>	<p>子どもの運動不足が言われている。</p> <p>児童生徒の7割は週2～3回以上運動を行いたいと思っている。</p>
スポーツ少年団の活動促進	<p>拡充: スポーツ少年団が実施する競技別交歓会やリーダー養成事業等に加え、地域における子どものスポーツ活動を充実させるために広報や活動場面の工夫などスポーツ少年団の活動への支援を検討する。</p>	<p>子どもの運動不足が言われている。</p> <p>児童生徒の7割は週2～3回以上運動を行いたいと思っている。</p>

推進施策	<p style="text-align: center;">推進の方向性</p> <p style="text-align: center;">「継続」「拡充」「新規」の判別は、平成21年度(2009年度)と平成22年度(2010年度)以降との比較による。</p>	<p style="text-align: center;">備考</p> <p style="text-align: center;">：部会での意見 ：スポーツに関する意識調査結果 ：広島市の現状分析結果</p>
3 障害者のスポーツ・レクリエーション活動の振興		
障害者・健常者が共に楽しめる行事の開催	<p>拡充 広島市心身障害者福祉センターが実施するスポーツ行事を継続するとともに、その行事の拡大や区民スポーツ大会、スポーツ・レクリエーションフェスティバルの内容を工夫し実施する。</p>	<p>活動の場所が限られているとともに、障害者に対する健常者の理解が乏しい。</p> <p>障害者のスポーツライフを充実させる取組が必要である。</p>
障害者スポーツの普及・振興	<p>拡充 広島市心身障害者福祉センターが実施する障害者スポーツ大会に加え、障害者スポーツの活動場所や介助者の拡大、指導者の養成、ボランティアの育成など、障害者が活動しやすい環境づくりを検討する。</p>	<p>約8割の市民が障害者が参加しやすいスポーツ環境の整備が大切と答えている。</p> <p>障害者や高齢者に適したレクリエーションスポーツの研究・体験会を実施する。</p>
4 地域コミュニティの活性化に向けたスポーツ活動の振興		
スポーツセンターの特色を生かした事業展開	<p>拡充 地域スポーツ振興担当コーディネーターが地域に出向き事業を展開する。</p> <p>さらに、地域団体等と連携し、地域のニーズを掘り起こしながら、スポーツセンター特有の施設を活用した事業を検討し実施する。</p>	<p>地域スポーツ振興担当コーディネーターが地域に出向いており、連携実績のある地域から理解されている。</p>
スポーツセンターを拠点とした地域コミュニティの活性化	<p>拡充 地域スポーツ振興担当コーディネーターが地域団体の主催行事に参加・協力し、地域団体との協働事業を行う。</p> <p>さらに、より多くの住民が参加・交流する行事の実施に向けて、地域スポーツ振興コーディネーターが中心となり検討する。</p>	<p>地域スポーツ振興担当コーディネーターが地域に出向いており、連携実績のある地域から理解されている。</p>
市民が主体となっ て行うスポーツイ ベントや市民団体 と連携したイベン トの実施	<p>拡充 スポーツ・レクリエーションフェスティバル等の市民レベルのイベントを引き続き開催するとともに、より多くの市民が参加できるような内容を検討する。</p> <p>また、市民団体と企画段階から連携し、誰でも気軽に参加できるスポーツイベントを開催する。</p>	<p>気軽に参加できるイベントの増加を市民の6割が望んでいる。</p> <p>市民が運動・スポーツをする場合に解決してほしい問題として「参加しやすいプログラムや大会」が挙げられている。</p>
スポーツを通じた 国際交流事業の推 進	<p>拡充 参加者の対象を青少年からその他の世代に広げるなど、幅広い市民によるスポーツを通じた国際交流事業を推進するとともに、国際平和文化都市にふさわしい事業展開を図る。</p>	<p>市民の5割以上が、スポーツによる国際交流事業の推進が大切であると考えている。</p> <p>青少年や指導者をはじめ、幅広い交流事業が必要である。</p>

推進施策	<p style="text-align: center;">推進の方向性</p> <p style="text-align: center;">「継続」「拡充」「新規」の判別は、平成21年度(2009年度)と平成22年度(2010年度)以降との比較による。</p>	<p style="text-align: center;">備考</p> <p style="text-align: center;">：部会での意見 ：スポーツに関する意識調査結果 ：広島市の現状分析結果</p>
5 一人一人が気軽にスポーツを楽しめる環境づくり		
スポーツ施設の利用促進	<p>拡充：スポーツに関するソフト事業の拡充を図るため、様々な事業を実施する。</p> <p>施設の空スペースをスポーツ以外の事業のために提供し、施設の利用価値を高める。</p> <p>インターネット等を利用した施設予約システムを導入する。</p>	<p>スポーツ施設の利用促進に関する現在の取組を継続実施しながら、市民ニーズに沿った事業の実施を図る必要がある。</p> <p>市民が運動・スポーツ施設でよく利用する施設の1位が区スポーツセンター、2位が運動広場・公園、グラウンドとなっている。</p> <p>市民が運動・スポーツ施設に一番に期待・希望することの上位に「健康・体力相談体制の整備」「スポーツ教室やスポーツ行事の充実」が挙げられている。</p> <p>市民ニーズの多様化をはじめ、地域コミュニケーションの場としての公益性など、より多様かつ広範囲なスポーツ活動の拠点施設としての各区スポーツセンターが果たすべき役割について見直すことが重要である。</p> <p>スポーツセンターの施設の特徴を生かした事業の実施・充実を検討する必要がある。</p>
スポーツ施設やスポーツイベント等に関する情報提供	<p>継続：インターネットによる情報提供を推進するとともに、情報発信の方法について市民のニーズを的確に把握するよう努める。</p>	<p>情報発信は、将来、様々な方法が展開される可能性があることから、市民のニーズを的確に把握することが必要である。</p> <p>「市民が運動・スポーツに関する情報を今後どのような手段で入手したいか」の1位がインターネットとなっている。</p>
スポーツセンター等でのスポーツ教室等の開催	<p>継続：スポーツ教室等の内容・あり方等の検討や積極的な広報により、気軽にスポーツを楽しめるスポーツ教室等の開催に努める。</p>	<p>市民が運動・スポーツ施設に一番に期待・希望することの上位にスポーツ教室やスポーツ行事の充実が挙げられている。</p>
各種クラブやサークル、指導者やボランティアなどの紹介・あっせん	<p>拡充：誰もが簡単に情報を入手できるようにスポーツセンターやホームページを通して、紹介・あっせんするようなシステムの構築を検討する。</p>	<p>クラブや同好会に加入していない市民の4割は加入を望んでいる。</p> <p>「市民が運動・スポーツに関する情報を今後どのような手段で入手したいか」の1位がインターネットとなっている。</p>
身近にある海や川、山を利用したアウトドアのスポーツ・レクリエーションイベントの実施	<p>拡充：積極的なイベントの開催に努めるとともに、身近な自然を楽しめるウォーキングマップ等の作成・普及に取り組む。</p> <p>さらに、イベントの効果的なPR方法を検討する。</p>	<p>7割以上の市民が自然とふれあえるスポーツ・レクリエーション活動の場の整備について大切と考えている。</p>
広島のスポートに関する資料等の展示会の企画・開催	<p>新規：広島にゆかりのあるスポーツ選手、チーム、競技などをテーマに収集したスポーツに関する資料等の展示会を企画し開催する。</p>	<p>広島のスポートの伝統を次世代に継承するとともに、スポーツに対する興味や関心を喚起するため、スポーツの企画展示を開催するなど「スポーツを学ぶ」という視点に立った検討が必要である。</p>

推進施策	推進の方向性 「継続」「拡充」「新規」の判別は、平成21年度(2009年度)と平成22年度(2010年度)以降との比較による。	備考 : 部会での意見 : スポーツに関する意識調査結果 : 広島市の現状分析結果
6 スポーツ・レクリエーション活動を支える組織や人材の育成		
学区体育協会の活性化	拡充 学区体育協会、地域スポーツ振興担当コーディネーター、体育指導委員が連携し、総合型地域スポーツクラブを視野に入れた事業や組織の見直しなどを検討し、地域スポーツ活動の中心的な団体となるよう組織基盤の強化を図る。	具体的な役割分担の明確化により効率的な事業展開を図り、活動を活性化させることが必要と言われている。 行事参加の固定化や競技志向で初心者が参加しにくいなどの課題が見られる。
総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力	拡充 地域スポーツ振興担当コーディネーターや体育指導委員と連携し、地域の誰もがこれまで以上に気軽にスポーツを行うことができるよう、学区体育協会が総合型地域スポーツクラブの機能を導入するなど学区体育協会を中心とした新たな総合型地域スポーツクラブづくりに関する取組を行う。	市民が求めるスポーツクラブ像として、「いろいろな種目や楽しみのあるクラブ」が上位を占めている。 これからのスポーツ振興のあり方として大切であると思うことについて、7割以上の市民が「地域スポーツクラブの育成など、日常的にスポーツに親しめる環境づくり」と答えている。 広島型の総合型地域スポーツクラブとして、福祉施設等を地域スポーツクラブの受け皿にする。 地域スポーツの受け皿のあり方や広島の風土に適した総合型地域スポーツクラブのあり方について検討する必要がある。
地域スポーツ活動の功労・功績者の顕彰	継続 地域スポーツ団体の組織基盤の強化に繋げるためにも功労・功績のあった人を引き続き顕彰する。	功労・功績のあった人を称えることにより、スポーツ活動への市民意識の高揚を図ることができる。
体育指導委員活動の活性化	拡充 体育指導委員の研修会や地域スポーツ振興担当コーディネーターとの意見交換会の開催などにより活動の活性化を図るとともに、市民に対する認知度が高まるよう、新たに市ホームページ等を利用して体育指導委員を紹介するなど積極的な情報発信に取り組む。	体育指導委員の活用方策の検討などにより活動の活性化を図る必要がある。 学区体育協会や地域スポーツ振興担当コーディネーターとの具体的な役割分担の明確化による効率的な事業展開により活動の活性化を図る必要がある。 体育指導委員に指導してもらいたいというニーズがある一方、体育指導委員の認知度が低い。
スポーツボランティアの登録・派遣	拡充 Jリーグ等へのボランティア派遣に加え、ボランティアする人たちが自主的に活動できるような登録・派遣の仕組みや活動形態等を検討する。	市民のスポーツボランティアの認知度は低いですが、スポーツ活動を「ささえる」という観点で重要である。
7 スポーツ・レクリエーション活動の場の整備		
学校体育施設の開放	拡充 学校体育施設開放事業を実施するとともに、この開放事業が地域のスポーツ・レクリエーション活動の中心として、より多くの人々が気軽に使えるようになる利用条件や対象者等の学校開放の仕組みについて検討する。	学校体育施設開放事業のことを約6割の市民が知らない状況である。 利用者が固定されており、利用したくても利用できないという声がある。
未利用地等のスポーツ活動の場としての活用の検討	継続 市民ニーズを踏まえ、未利用地の利用条件や開放の要件について調査・検討する。	-

推進施策	<p style="text-align: center;">推進の方向性</p> <p style="text-align: center;">「継続」「拡充」「新規」の判別は、平成21年度(2009年度)と平成22年度(2010年度)以降との比較による。</p>	<p style="text-align: center;">備考</p> <p style="text-align: center;">：部会での意見 ：スポーツに関する意識調査結果 ：広島市の現状分析結果</p>
<p>スポーツ施設の整備・充実</p>	<p>拡充</p> <p>施設の改修等について 既存施設の改修等の方法や優先順位について調査・研究する。</p> <p>施設の建て替えについて 吉島体育館の建て替えを行う。 老朽化している施設の建て替えについて調査・研究する。</p> <p>施設の新設について 少年硬式野球を行うことのできる施設整備を検討する。</p>	<p>区のスポーツ活動等の拠点となるスポーツセンターは、昭和55年の南区スポーツセンター開館に始まり、平成4年の安佐北区スポーツセンター開館により各区に設置が完了した。今後は、老朽化した施設の改修を順次行っていく必要がある。老朽化により改修が必要な施設が多いが、限られた予算の中で計画的に改修等を行うに当たり、その方法や優先順位について調査・研究する必要がある。</p>
		<p>昭和56年の新耐震基準以前に建設されたスポーツ施設について耐震診断を行い、耐震化を図る必要がある。また、大規模空間を有するスポーツ施設の吊り天井の耐震化を図る必要がある。</p>
		<p>吉島体育館について、地元住民及び関係機関との連絡調整を行い、平成23年度の供用開始に向け、事業の進行管理を着実にやっていく必要がある。</p>
		<p>岡田地区運動広場（仮称）に少年野球場を整備する計画があり、この計画を踏まえ、検討する必要がある。調整が整わなかった場合、既存の施設改修により少年野球場の整備を検討する必要がある。</p>
		<p>市民への意識調査によると、1年間に週1回以上、運動・スポーツ活動を行った市民の割合が31.1%に対し、今後の活動意向が62.1%と大きく上回っており、運動・スポーツ活動を希望しているが、実際には実施できていない人が多い。さらに、運動・スポーツをしていない理由の4割弱が「時間や機会がない」ことをあげており、身近な場で運動スポーツを実施できる環境を整える必要がある。</p>
		<p>運動・スポーツをする場合に困っていることで、解決してほしいことの1位に「使いやすい施設や場所」が挙がっており、気軽にスポーツを楽しみたいというニーズがうかがえる。</p>
		<p>「地域スポーツクラブの育成など、市民が日常的にスポーツに親しめる環境づくり」や「運動・スポーツ施設に整備、充実と有効活用」が上位に上がっていることから、市民が身近な場で日常的にスポーツに親しみたいという思いがうかがえる。</p>
		<p>スポーツ施設の老朽化が進む中、近年では高齢者や女性の利用が年々増加しており、新たな活動形態を取り入れた運動メニューに対応可能な施設（例：ニュースポーツ人気、泳ぐプールから歩くプール）が強く求められているため、時代に即したスポーツ施設・設備の再整備を早期に行う必要がある。</p>

推進施策	<p style="text-align: center;">推進の方向性</p> <p style="text-align: center;">「継続」「拡充」「新規」の判別は、平成21年度(2009年度)と平成22年度(2010年度)以降との比較による。</p>	<p style="text-align: center;">備考</p> <p style="text-align: center;">：部会での意見 ：スポーツに関する意識調査結果 ：広島市の現状分析結果</p>
<p>環境保全の視点に立ったスポーツ施設の運営や管理方法の見直し</p>	<p>拡充：スポーツセンター（東区を除く）の駐車場有料化を検討する。次期指定管理者募集時に利用料金制を導入する場合、どのような方策によって効果的な施設運営が可能となるかについて検証する。施設運営については、省エネルギー等の取組を促進するとともに、施設の緑化に取り組む。</p>	<p>公共施設等の駐車場の有料化は、受益者負担の適正化による歳入確保、環境への負荷の少ないまちづくりの推進、駐車場の利用の適正化の3つの観点から実施する。駐車場有料化及び使用料減免措置の見直し（高齢者及び市外利用者の減免見直し）については、財政課をはじめとする全市的な検討が必要であることから、その方向性を踏まえ検討する必要がある。</p>
		<p>利用料金制については、指定管理者の自主的な運営を促し、経営努力のインセンティブを高めるとともに、施設のより効果的な活用を図るため、本市においても次期指定管理者募集に当たり、多くの施設において導入する予定である。今後、利用料金制を導入する際の効果的な施設運営について検証する必要がある。</p>
		<p>自然環境保護へのより一層の配慮とともに、環境保全の視点に立った環境にやさしいスポーツ振興方策を展開する必要がある。</p>

II 学校における体育・スポーツの充実

推進施策	推進の方向性 「継続」「拡充」「新規」の判別は、平成21年度(2009年度)と平成22年度(2010年度)以降との比較による。	備考 : 部会での意見 : スポーツに関する意識調査結果 : 広島市の現状分析結果
1 学校における子どもの運動・スポーツ活動の促進		
トップス広島に加盟している各クラブチームとの連携・協力によるスポーツ指導	継続: トップス広島の指導者や選手を招へいし、指導者養成研修会や選手と生徒の交流会を実施する。	児童生徒が体育の授業を除いて、これから運動・スポーツを教えてもらいたい指導者で最も多いのはプロのコーチである。 児童生徒の8割近くがプロスポーツやトップレベルのアマチュアスポーツの試合に関心がある。 競技別強化指定校制度を導入するとともに、トップス広島の各クラブチームと連携しながら、指導技術の向上やメンタル強化を図る必要がある。
運動部活動の活性化	継続: 中学校運動部活動活性化支援事業を実施する。	指導者の確保のため、一般のボランティアを指導者として活用する方策を検討する必要がある。 外部指導者の充実や体育教師の積極的採用に取り組む必要がある。 児童生徒が体育の授業を除いて、運動・スポーツを教えてもらう人で最も多いのは学校の先生である。 いちばんよく参加しているスポーツクラブや入りたい運動・スポーツクラブで最も多いのは、共に学校の部活である。
「広島市立学校スポーツ活動支援人材バンク」の充実	継続: 「広島市立学校スポーツ活動支援人材バンク」を充実する。	近年、学校教育は学力重視、安全対策などに重点が置かれ、体育・スポーツ振興が停滞しているため、生涯スポーツの基礎を培うことにも重点を置き、子どもがスポーツに親しみ、スポーツを好きになるための取組を行う必要がある。 教師の高齢化、多忙、未経験、転勤などにより、技術指導に専門の教師を配置することが難しい状況にあり、外部(地域)の指導者を積極的に活用する必要がある。
異校種間によるスポーツ交流の実施	継続: 異校種間によるスポーツ交流を実施する。	近年、学校教育は学力重視、安全対策などに重点が置かれ、体育・スポーツ振興が停滞しているため、生涯スポーツの基礎を培うことにも重点を置き、子どもがスポーツに親しみ、スポーツを好きになるための取組を行う必要がある。
子どもの体力向上への取組	拡充: 本市が策定した運動プログラムの普及、体力優秀賞の交付、中学校体育大会派遣の補助、体育大会の開催、「新体力テスト」の全校実施に取り組む。 さらに、体力づくりジャンプアップ事業を実施する。	学区体育協会では、学校におけるスポーツ活動のバックアップや連携した取組は検討できる。 生涯スポーツの基礎を培うことに重点を置き、子どもがスポーツに親しみ、スポーツを好きになる取組を行う必要がある。 児童生徒が運動・スポーツをしている理由・目的の上位に、「健康・体力づくり」が挙げられている。 新体力テストの結果では、広島市平均が全国平均と比較して「同じか、上回る」種目の割合は、小学校で50%、中学校及び高等学校で20%弱となっている。

2 学校におけるスポーツ環境の整備		
武道場の整備	継： 武道指導の充実を図るため、中学 続： 校の新設、校舎の改修に併せて計画的に武道場を整備する。	武道場の整備に当たり、子どもや学校、地域社会のニーズを把握し、計画的な施設整備やニーズに対応した活用方法の検討を行う必要がある。
校庭の芝生化	新： グラウンドを芝生化する学校への 規： 支援策を検討する。	子どもが安心して積極的に運動・スポーツ活動を行えるよう、校庭の芝生化を推進する必要がある。

Ⅲ 競技力の向上

推進施策	推進の方向性 「継続」「拡充」「新規」の判別は、平成21年度(2009年度)と平成22年度(2010年度)以降との比較による。	備考 : 部会での意見 : スポーツに関する意識調査結果 : 広島市の現状分析結果
1 ジュニア選手の育成・強化		
ジュニア選手の育成・強化	拡充: 効率のよい事業内容を検討し、スポーツ協会が実施する練習会等の選手育成強化事業等への補助を継続しつつ、より多くの小・中学生のジュニア選手が将来国民体育大会に出場・活躍できるよう関係団体と連携し、普及・発掘・強化といった一貫指導の強化プログラムを構築し、発展させていく。	市民の6割が、スポーツ競技力の向上が大切であると答えている。 今は各スポーツ団体への補助を中心とした強化事業、各企業スポーツ支援、学校のクラブ活動補助が中心となっているが、その効果については、十分と言えないといった声もある。
2 競技力の向上のための環境づくり		
指導者の養成	拡充: スポーツ協会が実施する競技別指導者養成講習会等を継続しつつ、一貫指導の強化プログラムを踏まえた指導者の養成、確保及び活動場所の拡大を検討し、発展させていく。	中学校部活動等での指導者不足が言われている。 指導者による体罰などの不祥事が起こっている。 市民から求められている指導者のタイプとして、技術指導をしてくれるコーチ型が半数以上を占めている。
競技団体の練習場所の確保	継続: 練習場所の確保に関する競技団体のニーズを把握するための調査を行うとともに、指定管理者と協議し、そのニーズに対応する受入体制を強化する。	競技者の勤務時間・形態の変化などにより、練習場所・時間についても様々な要望が出されることが予想される。
成長期のジュニア選手のサポート	拡充: スポーツ協会が実施するジュニア選手メディカルチェック等を継続しつつ、国民体育大会へ出場し活躍することを目指す選手の強化に繋がるような継続指導等を含んだサポート体制を検討する。	メディカルチェックは怪我を予防し、選手寿命を長期化するとともに競技力の向上を図ることができる。

IV まちの活力創出に向けたスポーツの振興

推進施策	推進の方向性 「継続」「拡充」「新規」の判別は、平成21年度(2009年度)と平成22年度(2010年度)以降との比較による。	備考 : 部会での意見 : スポーツに関する意識調査結果 : 広島市の現状分析結果
1 国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致等		
国際的・全国的なスポーツ大会の誘致・開催	拡充 「JOCパートナー都市協定」の活用などにより、国際的・全国的なスポーツ大会を誘致・開催することに加え、新たに広島で大会を開催する魅力やメリットをPRする方法を検討し、より積極的な誘致活動を実施する。	市民の8割近くが国際的なスポーツ大会に関心があり、開催・誘致についても市民の半数近くが大切であると答えている。 JOCパートナー都市協定の活用などにより、これまで多くの国際的・全国的なスポーツ大会を誘致することができた。
広島開催が定着している国際大会、全国大会に対する支援	継続 大会開催効果がより発揮されるよう、大会への補助金の交付、市ホームページや広報紙による大会のPRなどを行う。	市民の8割近くが国際的なスポーツ大会に関心があり、開催・誘致についても市民の半数近くが大切であると答えている。
市民レベルの全国的なスポーツ大会等の開催・誘致	新規 新たな市民参加型の全国的なスポーツ大会の開催・誘致に取り組む。	6割以上の市民が気軽に参加できるスポーツイベントの開催・誘致を望んでいる。 平和記念公園を発信地とするひろしま国際平和マラソンを世界的イベントとして開催する。
トップアスリートによる強化合宿の誘致等	拡充 「JOCパートナー都市協定」の活用などにより、国内外ナショナルチームの合宿・練習を誘致することに加え、新たに広島で合宿を開催する魅力やメリットをPRする方法を検討し、より積極的な誘致活動を実施する。 また、合宿中における市民との交流事業を実施するとともに、各チームや市民にとってより有益な事業内容を検討する。	合宿の誘致について、市民の約半数が大切であると答えている。 プロスポーツ選手やトップスポーツ選手と市民とのふれあい・交流などを通じて夢や感動を共有することのできる場づくりなどに、民間活力を活用しながら取り組む必要がある。 JOCパートナー都市協定の活用などにより、これまで多くのトップアスリートの合宿を誘致することができた。
オリンピックのあり方についての調査・研究	新規 商業主義を脱却した真の「平和の祭典」にふさわしいオリンピックを復活させるため、オリンピックのあり方について調査・研究するとともに、被爆地である広島・長崎で開催する意義について世界にアピールする。	8割以上の市民がオリンピック等の国際スポーツ大会に関心を持っている。 平和連帯都市市長会議加盟都市等と連携し、平和の祭典であるオリンピック本来のあり方を調査・研究する必要がある。
環境保全の視点に立ったスポーツ大会等の運営	新規 大会開催時のペーパーレス化や公共交通機関の積極的な利用を促すなど、環境に配慮した運営を実施するとともに、各競技団体へも呼び掛ける。 さらに、各競技団体と連携して、環境保護の視点に立った大会等の運営方法について調査・研究を行う。	環境問題を踏まえ、環境保護の視点に立ったスポーツ大会の開催について検討する必要がある。

推進施策	<p style="text-align: center;">推進の方向性</p> <p style="text-align: center;">「継続」「拡充」「新規」の判別は、平成21年度(2009年度)と平成22年度(2010年度)以降との比較による。</p>	<p style="text-align: center;">備考</p> <p style="text-align: center;">：部会での意見 ：スポーツに関する意識調査結果 ：広島市の現状分析結果</p>
2 トップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興		
プロスポーツチームや企業スポーツチームが実施するイベントへの支援	<p>拡充： トップス広島に加盟している各クラブチーム等が実施するイベントのPRを行うとともに、各チームが実施するイベントに合わせて事業を実施するなど、双方にとってより効果的な方法を検討する。</p>	<p>プロスポーツの振興が大切であると考えている市民が多い一方、トップス広島の認知度は期待されるほど高くない状況にある。</p> <p>市民はスポーツ教室等でのトップス広島とのふれあいの場を望んでいるが、各チームとも試合との兼ね合いなどにより日程調整が難しい。</p>
地元スポーツチーム、地元輩出選手の試合開催や成績等についての情報提供	<p>拡充： 市及びスポーツ協会の広報媒体を活用した地元スポーツチーム、地元選手の試合開催や成績等についての情報提供を行う。 また、新たに市ホームページを活用し、トップス広島の試合日程等の情報提供や、広島出身のオリンピック等への出場選手の紹介を行う。</p>	<p>プロスポーツの振興が大切であると考えている市民が多い一方、トップス広島の認知度は期待されるほど高くない状況にある。</p>
トップス広島に加盟している各クラブチームと一体的に取り組むスポーツ教室等の実施	<p>拡充： トップス広島と市民と双方により有益な事業を実施することに加え、各チームが実施するイベントに合わせて事業を実施するなど、双方にとってより効果的な方法を検討する。 また、競技力の向上のため、各学校の運動部員から選抜した部員と各チームとの合同練習や各チームの指導者やOBによる指導が行える仕組みづくりに取り組む。</p>	<p>イベントの開催に当たっては、誰でも気軽に参加できるような実施方法・種目を検討する必要がある。</p> <p>市民はスポーツ教室等でのトップス広島とのふれあいの場を望んでいるが、各チームとも試合との兼ね合いなどにより日程調整が難しい。</p> <p>市民のニーズとして技術的な指導やプロのコーチによる指導が求められている。</p> <p>スポーツ教室の実施など現在の取組を推進していくとともに、競技力向上に向け、運動部員等の練習参加に対する意向を踏まえ、実施内容を充実する必要がある。</p>
地域スポーツ振興担当コーディネーターによるトップス広島の応援気運の醸成のためのスポーツセンターを拠点としたトップススポーツ応援事業の実施	<p>拡充： トップス広島情報コーナーの設置などスポーツセンターを拠点としたトップススポーツ応援事業に加え、地域スポーツ振興担当コーディネーターを中心に、各区単位での市民応援組織の創設に向けた取組や各区スポーツセンターごとに地域で活躍するチームを重点的に応援する取組など、より地域に密着した形での支援を検討する。</p>	<p>市民の8割近くがトップレベルのアマチュアスポーツの大会に関心があると答えているが、トップス広島に加盟する広島東洋カープ、サンフレッチェ広島を除くアマチュアチームの試合を観戦したことがある市民は非常に少なく、トップス広島の認知度も期待されるほど高くない状況にある。</p>
民間主体のサッカー専用スタジアム整備の支援	<p>新規： 民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応して、必要な支援に取り組む。</p>	<p>サッカーのできる球技場はビッグアーチがあり、現在の厳しい財政状況の中、市が建設主体となる整備方法は困難であると考えている。</p>